

令和3年10月25日発行

栗原普及センターだより 「くりはら」

149号



## 秋風香る 輝くサファイヤ 「シャインマスカット」



今やぶどう界のプリンス「シャインマスカット」。

艶やかに輝くその姿はまるで宝石のよう。

上品なマスカット香で、皮ごと食べられることから、老若男女問わず、全国的に大人気です。

栗原市でも、37人の方々がシャインマスカット栽培に挑戦し、研修会等で技術を磨いています。

今年の実りに感謝しながら、シャインマスカットで贅沢な秋の夜長を楽しみましょう。

# 令和3年度前半の普及現地活動について

活動  
報告

## 1 きゅうりの相互視察研修会を開催しました

栗原市のきゅうり生産は、高齢化等により作付面積や生産者の減少が続いており、産地の生産力を維持するためには若い世代の生産者を中心に、技術力を高めていくことが求められています。

プロジェクト課題の活動の一環として、6月15日(火)、継続的改善手法(SPDCA)に取り組むきゅうり生産者4戸及び1法人(栗原市志波姫・若柳地区)に対して、各々のハウスを巡回しながら栽培上のポイントを学ぶ相互視察研修会を開催しました。

各ハウスで生産者から作付状況と栽培管理方法について説明を受けた後、きゅうりの生育状況を見ながら、追肥の頻度や病害虫の防除方法及びタイミング等について意見交換を行いました。

また、普及センターからは、湿度改善や暑熱対策として今年度試験的に導入したミスト機器の事例について、測定した温湿度のデータを用いながら、情報提供を行いました。品種の特性、誘引方法と使用する資材等、幅広い質問が出され、生産者が自らの栽培管理方法を見直す機会となりました。

課題対象者それぞれの目標達成に向けて、継続して支援を行っていきます。



相互視察研修会

活動  
報告

## 2 農業法人・農業経営体研修会「これからの農業は女性と輝く!!」

令和3年8月10日(火)、栗原合同庁舎において、農業法人・農業経営体研修会「これからの農業は女性と輝く!!」を開催しました。

本研修会は、栗原で農業に携わる女性と農業法人、農業経営体が生き生きと活躍することを目的に、就労環境整備に取り組んでいる先進事例を学ぶとともに、関連する支援事業について情報提供したものです。

先進事例として、岩手県一関市の有限会社かさい農産 葛西亮介取締役社長から、「社員一人一人が輝ける職場を目指して」と題して基調講演をいただきました。

かさい農産は、人材確保の中で、子育てのために通常の勤務時間で働くことが困難な女性の面接をきっかけに、社員一人一人のライフステージに対応した勤務時間・休日を設定し、社員全員が家庭を中心に働ける職場環境を実現しています。

そのために、誰でもその作業ができる業務マ

ニュアルの作成や、社員全員が様々な業務をやってみること(クロストレーニング)で、社員の誰が休んでも皆でカバーできる「多能工化」に取り組んでいることを紹介いただきました。

柔軟な経営形態と経営発展を遂げている事例に、参加者の多くが大変刺激を受けたようです。

女性は、農業や地域の活性化において重要な役割を果たし、農業経営の担い手として大きく期待されています。

普及センターでは、今後も女性をはじめとした働き手の皆様が輝けるよう、農業法人や農業経営体における就労環境の整備を支援していきます。



農業法人・農業経営体研修会

### 活動報告 3 「だて正夢」「金のいぶき」現地検討会を開催しました

7月16日（金）に水稻品種「だて正夢」「金のいぶき」現地検討会を栗原市内の現地ほ場で開催し、生産者はじめ関係者34人が参加しました。

築館地区の「だて正夢」展示ほでは、生育状況や今後の管理のポイントなどを普及センターから説明しました。ドローンによる農薬散布のデモ飛行も行い、留意点などについて関係事業者から説明を受けました。



現地検討会

者から説明を受けました。

また、一迫地区の「金のいぶき」展示ほでは、品種特性や生育状況を普及セン

ターから説明し、参加者は収量を確保するための葉色管理などを確認しました。生産者同士の情報交換や質疑応答も行われ、生産者は今年の収量・品質の確保に向けて意欲を高めていました。

「金のいぶき」については、玄米食向け品種の需要の高まりを背景に、県内での作付けが急増しており、栗原市内でも作付面積・生産者の拡大が期待されま  
す。「金のいぶき」の作付けに興味のある方は、普及センター、JA等にお問い合わせください。



ドローン活用のデモ飛行

## 新任指導農業士紹介

今年度、栗原市から新たに2人の指導農業士が宮城県知事の認定を受けましたのでご紹介します。

### 千田 繁さん（金成）

千田繁さんは、鉢もの及び水稻採種の経営を行っています。家族経営協定を締結し、それぞれの役割分担や就業ルールを明確にし、農業経営を行っています。



鉢物は、シクラメン、ベルフラワーが主力品目であり、品評会等での入賞経験も多く、高い品質が評価されています。

宮城県鉢物生産組合、東北鉢物生産組合等にも加入し、研修会等を通して技術研鑽するとともに、広いネットワークを持ち経営に生かしています。

園芸振興の担い手として、また、地域農業の牽引役として活躍が期待されます。

### 佐々木 裕章さん（志波姫）

（株）佐々木アグリ農場代表取締役の佐々木裕章さんは、水稻及び大豆の大規模経営を行っており、地域における土地利用型農業のモデル的な取組を行っています。



米の直接販売や大豆乾燥調製施設の共同運営、ドローンの活用など経営の効率化にも積極的に取り組んでいます。

農業大学校の研修生受入れや、地域の若手農業者からの技術相談等に熱心に対応するなど後継者育成にも積極的です。

水田農業の担い手として、また、地域農業の牽引役として活躍が期待されます。

## アグリテックの活用をお考えの方へ みやぎアグリテックアドバイザー派遣事業のご案内

- アグリテックとは、農業に、スマート農業技術を含むICT（情報通信技術）等の先端技術を導入することで、省力、軽労化を図るなどの課題を解決することです。
- アグリテックの導入に関することや、効果的な活用・改善に関して、専門家または経験的立場から有効な助言・指導を行うアドバイザーを派遣します。
- アドバイザーの派遣に要する経費は無料です（県が負担します）。
- アグリテックの活用について、お悩みの方や今後の導入を希望している方で、アドバイザーによる支援を希望する場合は、お気軽に普及センターまでご相談ください。



### <派遣支援の例（イメージ）>

ほ場管理システムを導入したが、使い方がよく分からない。有効な活用方法は？



ほ場管理システムによる構成員間のほ場情報共有化、作業計画・進捗管理による作業効率向上等、活用方法確立を支援  
【アドバイザー】ICT 専門家、実践農業者等

## 様々なリスクをカバーしたい方へ 収入保険をおすすめします

- 原則、全ての農産物を対象に、自然災害や価格低下だけでなく、農業者の経営努力では避けられない収入減少を幅広く補償します。倉庫の浸水被害、取引先の倒産、病気で収穫不能等にも対応できます。
- 保険期間の収入が基準収入の9割（補償限度額の割合※1）を下回った場合に、下回った額の9割（支払率※2）を上限として補てんします。

※1：補償限度額：基準収入の9～5割の中から選択できます。  
 ※2：支払率：掛捨ての保険方式は9～5割、積立方式は9～1割の中から選択できます。  
 ※1と※2の組み合わせや補償の下限を設けることで、掛金の安いタイプにすることも可能です。

- 税の申告で青色申告を行っている農業者が対象です（加入申請時に青色申告の実績が1年分あれば加入できます）。
- 詳細は、宮城県農業共済組合栗原支所（0228 - 23 - 7111）へお問い合わせください。

令和3年	令和4年	令和5年
12月末まで	1～12月 (税の収入の算定期間)	確定申告後 (3～6月)
加入申請	保険料・積立金・事務費の納付	保険期間
		保険金・特約補てん金の請求・支払

※保険期間は税の収入の算定期間と同じです。法人の保険期間は、事業年度の1年間です。事業年度の開始月によって、スケジュールが変わります。

加入・支払等のスケジュール  
(保険期間が令和4年1月～12月の場合のイメージ)

## 「米価下落に伴う営農相談窓口」の設置について

県では、令和3年産米の概算金下落を受けて、「各種支援策」や「つなぎ資金」の紹介、所得確保に向けた栽培品目選定、低コスト技術の導入等、営農継続に向けた相談に対応します。

- 受付時間：8：30～17：15（土日・祝日を除く）
- 電話番号：0228-22-2268（北部地方振興事務所栗原地域事務所農業振興部地域調整班）

農地中間管理事業を活用しましょう

栗原農業改良普及センター 〒987-2251 宮城県栗原市築館藤木5-1 Tel:0228-22-9404 FAX:0228-22-6144

